

## 社会福祉法人永山会 令和4年度事業計画

### 【法人本部】

令和3年度は変異を繰り返す新型コロナウイルス対策で昨年に続き恒例行事を中止した。面会や外出制限、近隣でのクラスター発生等、目まぐるしい情勢変化の中、感染管理対策の強化に努めた。収束するかのように見えても再び繰り返す感染拡大のため、N95 マスクをはじめとする衛生資材を備蓄するなど有事に備えた。感染症や自然災害、大規模災害のリスクが顕在化するなか安定した事業運営を継続できる対策を講じる必要がある。コロナ予防ワクチン接種については嘱託医の協力のもと令和4年3月末には、希望する入居者および職員の3回目の接種が終了している。

令和4年度は新たな感染症が出現することも視野に入れて、施設内感染防止、衛生資材の確保を継続し、特に感染症を施設内に持ち込まないための対策を最優先課題として取り組む。また、令和3年度の介護保険制度改正で感染症や災害が発生した時でも必要な介護サービスを提供するための事業継続計画『BCP』の策定が3年間の経過措置を経て義務化することとなった。これまでのマニュアルの見直しが必要となるため、法人内にプロジェクトチームを立ち上げ策定する。

長引く感染症対策のため入居者と家族が交流する機会が少なくストレスとなっている。入居者の心身に与える影響を十分に勘案し感染症拡大防止に配慮した面会の実施や、日々の生活状況や健康状態の情報をきめ細かく家族に伝え不安軽減に努める。

職員の新規採用者の確保が難しい中、一昨年から取り組んできた「働き方改革」をさらに押し進め、働く職員たちが個々の事情に応じ働き方を選択できるよう支援し、並行してキャリアパスに基づいた資格取得、研修会への参加、役職者への登用、給与体系の見直し等、魅力ある職場環境を構築し職員の定着率を高める。また、介護業界の慢性的な人材不足を解消するためAI(人工知能)の導入が社会的に検討されている。課題も多いが未来に向けての介護の在り方を検討していきたい。

財政面では科学的介護システム「LIFE」の活用を押し進め、効率的な加算の算定ができるように運用方法を学び、介護サービスの質を高め、高品質のサービスを提供し、利用者や家族から支持され選ばれる事業運営を目指す。コロナ禍における在宅サービスの使い控えによる収益減に対応すべく在宅サービスの経営戦略を見直し、在宅部門強化のための人材を配置する。

施設整備では、そせい苑、しがそせい苑、まどかの経年劣化に伴う不具合を適切に把握し、必要に応じて修繕や備品購入をしていく。

地域においては感染症拡大により低下した地域活動を支援し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう関係機関や地域役員、行政と連携し地域包括ケアシステムを推進する。

職員一人ひとりが法令を遵守し、ヒューマンエラーや不正な行為を許さず、基本理念であ

る『明るく、楽しく、美しく』に基づき、利用者一人ひとりの尊厳ある生活を守り、自律した生活支援に努め、日常生活を満足して暮らしていただける事業運営を目指す。

#### 長期計画（6か年）2022年～2027年

社会福祉法人のガバナンス強化及び透明性の確保に努める。

効果的なリスクマネジメントの構築

利用者の自己実現の達成を目指す。

職員の適正やキャリアに沿った教育体制を構築し人材の育成を図る。

#### 中期計画（3か年）

事業運営の効率化を図り法人経営の安定を図る。

B C Pの策定とそれに沿ったマニュアルづくり。

活発な事業運営を展開するとともに、若手職員を役職に登用し次世代管理職を育成する。

キャリアパスに沿った新人・現任研修や中途採用者また、派遣職員の研修の充実を図る。

地域や家族との結びつきを重視し積極的な交流を進める。

新たな雇用体制の構築

#### 令和4年度重点課題

- (1) 感染症や自然災害に強い施設づくり
- (2) 安定した経営(財務の安定)
- (3) 未来に向けた人材の確保と職員教育
- (4) 高齢者(入居者)の望む暮らしをサポートする。

## 令和4年度 事業計画

### 【事業所名】 特別養護老人ホームそせい苑・ショートステイ

特養は開設27年目を迎え、安定したサービスを提供するために「介護のPDCAサイクル構築」「新しい人材確保の開拓」「施設の計画的な修繕」が急務である。

職員間で個別ケアの重要性や介護のPDCAサイクルの活用を実践していくことで、利用者や家族に「ここで過ごして良かった。」と心から思えるような生活を提供していく。

利用者の体調管理を行い、誤嚥性肺炎や尿路感染等、良質な介護を提供することで防げる疾病を減らすための勉強会を定期的を実施していく。

安定した介護サービスを提供するため、正職員の減少を食い止め、新しい人材確保の開拓やインターネットやホームページを活用した方法を検討し、正職員の確保に努める。設備に関しては施設建物設備の耐用年数及び不具合等を適切に把握し、計画的且つ適時の整備、修繕を行う。

ショートステイでは新型コロナウイルスの感染拡大で自宅で生活するより、感染管理の行き届いた施設での生活を希望する家族が増え、ショートステイの利用が増加傾向である。今年も家族の期待に応えるべく引き続き、新型コロナウイルスの感染対策を実施し、感染予防と体調不良の早期発見を目指し、家族やケアマネージャーと密に連携する。

#### 安定した経営

##### 具体的目標と指標

誤嚥性肺炎や尿路感染などを予防するために、口腔ケアや排泄介助の見直しを実践することで防げる入院を抑え、目標稼働率96%を維持する。

業務の効率化や多岐にわたるコスト削減方法を模索し、コスト意識を高め、日用品類を5%経費削減に努める。

#### 地域貢献

##### 具体的目標と指標

感染症や災害への対応を強化し、職員が事業継続計画（BCP）の外部研修受講に加え、まずは職員で感染症や災害の訓練（シュミレーション）を年に1回実施する。

地域住民との避難訓練を行うために、地域住民との密接な連携体制について検討する。

#### サービスの質の向上

##### 具体的目標と指標

(1) 利用者が日々の生活の中で、生活のリズムや趣味、食べたいもの等自己で選択できるよ

うな環境とサービスを提供する

- (2)職員1人1人について、介護知識、技術、資格取得状況等をふまえた適切な研修機会を1人1回以上実施することで利用者の生活の質を向上させる。
- (3)キャリアパスに適した外部研修、オンライン研修に職員が参加し、研修で学んだ内容を現場で共有し活かす事で、介護の質の標準化や質の高い介護サービスが提供できる体制を整備する。
- (4)送迎を安全に行うために、運転者適性診断を受講したものであっても、受講から1年以上経過している者には再度受講を実施する。

人材確保と定着

具体的目標と指標

職員1人1人の自己実現、キャリアアップを支援するために、職員が働く意義や目標を確認できるように、個別面談を年に2回以上実施する。

ウィズコロナ時代において、施設見学や説明会の開催を対面形式で実施する事が難しいため、WEBやホームページを活用した採用活動を検討する。

感染症対策

具体的目標と指標

感染が拡大している新型コロナウイルスを施設に持ち込まないように予防対策を引き続き重点的に実施する。

感染症が発生してもご利用者に必要なサービスが安定的且つ継続的に提供できるよう、細かな事業継続計画（BCP）を策定する。

災害対策

具体的目標と指標

災害備蓄（備品・食品）を見直し、利用者及び職員、地域住民（30人分）3日分を購入し災害時に備える。

災害が発生しても介護サービスが安定的且つ継続的に提供できるよう、業務継続計画（BCP）を策定する。

施設の保守、修繕

具体的目標と指標

送迎車の買い換えや電話設備の更新を行い、また、配管などの老朽化も早期に発見し、ご利用者の生活に支障が出来ないようにする。

## 令和4年度 事業計画

### 【事業所名】 そせい苑老人デイサービスセンター

デイサービスは稼働率の向上が急務である。サービス向上を図るため、現在行っているサービスの見直しを行い、ご利用者が過ごされるスケジュールパターンを増やし、日々選択できる環境を整備する。

地域住民との地域交流が出来る場所に感染予防を徹底しながら積極的に出向き、コミュニケーションを図り、デイサービスを広報していく。また、チラシの作成と送付を継続させ、他事業所や家族向けにも発信する。

新型コロナウイルスを筆頭に感染症の水際対策として、利用者や職員の体調管理に努め、体調不良者を早期に発見出来るように送迎時に体調確認を綿密に行う。また、ウイルス感染を拡大させない環境作りに努める。

外部のケアマネージャーや家族との信頼関係を再構築するために当事業所内の情報を発信し、発信先にとって必要な情報を見極め、全職員で情報を共有することで誰でも迅速に対応出来る環境を整備し、登録者数を獲得出来るように努める。

#### 安定した経営

##### 具体的目標と指標

ご利用者の状態変化やご家族からの依頼等も含めて、担当ケアマネージャーと随時連絡を取り合う事で、そせい苑老人デイサービスを利用していけば安心できるといった印象を与える。また、他事業所との密な関係を気づき、新規獲得目標として月5件を掲げ、目標稼働率75%を目指す。

営業地域を伏見区全域に行いつつ、送迎コースと照らし合わせて新規利用者を確実に獲得できるように取り組む。

#### 地域貢献

##### 具体的目標と指標

感染症や災害への対応力強化の観点から研修の実施等に加え、訓練（シミュレーション）を実施する。地域住民との密接な連携体制について検討する。

福祉人材育成のための介護実習生（1回/年）を感染予防に努めながら受け入れる。

地域住民との避難活動が行えるように、地域会議や地域のイベントに感染予防に徹底しながら積極的に参加する。

#### サービスの質の向上

## 具体的目標と指標

クラフトやフェルトを用いた作品作りなどの趣味活動、介護予防に重点を置いた機能訓練器具（楽々ふみふみ）や予防型ボードゲームなど楽しみながら、個々に応じた介護予防ができるように多彩なレクリエーションプログラムを提供して過ごして頂く。

ご利用者の状態に応じた在宅生活継続のための生活機能の維持・向上訓練を充実する。

質の高い接遇が平均的に行えるように、笑顔で挨拶のできる職員の育成を行うために、マナー研修に職員が出席する。

送迎を安全に行うためにも、運転適性診断を受講したものであっても、年数の経過しているものや、運転技術の未熟な者は再受講する。

## 人材確保と定着

### 具体的目標と指標

職員1人1人の自己実現、キャリアアップを支援するために、職員が働く意義や目標を確認できるよう、定期的な個別面談を年2回以上実施する。

新卒学生を確保できるように、インターネットツールを活かした採用活動を取り入れていく。

## 感染症対策

### 具体的目標と指標

「新しい生活様式」を軸に、職員の健康管理及びご利用者の罹患が疑われる段階から適切な初期対応を行い、施設内への持ち込みを防ぐ事でクラスター発生防止に努める。

感染症のマニュアルに基づき、発生時の訓練（シミュレーション）を実施する。

循環式浴槽の週1回の換水、循環経路の粗大汚濁物を除去する装置（ヘアキャッチャ）の清掃、設備の衛生管理を行う。浴槽水の消毒に当たっては、塩素系薬剤を使用し、浴槽水中の遊離残留塩素濃度を測定して、通常 0.4~0.8mg/L に保ち、レジオネラ菌発生を防止する。

## 災害対策

### 具体的目標と指標

自然災害や大規模災害発生時に、利用者の安全確保に係るマニュアルを家族と連携し作成する。

緊急連絡網を活用するためのマニュアル化、訓練（シミュレーション）を実施する。

## 施設の保守、修繕

### 具体的目標と指標

ご利用者の生活に支障がないよう施設建物設備（修繕・更新）を計画する。

施設建物設備の耐用年数及び不具合等を適切に把握し、計画的且つ適時の整備、修繕を行う。

【事業所名】 下鳥羽地域包括支援センター

京都市では、来る2025年問題を見据え、持続可能な開発目標「(SDGs 3:健康と福祉)」を視野に入れ、京都市民長寿すこやかプラン 第8期を2021年から2023年の3年間かけて新に策定しています。しかしながら、この令和3年度は、昨年度から長引く新型コロナウイルス感染拡大と度重なる緊急事態宣言を受け、職員一同、出口の見えないトンネルの中にいるような何とも言えない不安を抱えながらも、今まで培ってきた介護予防の取り組みに対し情勢は容赦なく逆行した形となり、フレイル悪化・介護度進行・認知症急増という更なる課題を突き付けられました。今年度はポストコロナを念頭に新しい形での地域支援の経験を活かして実践していきたいと考えています。

① 安定した経営

具体的目標と指標

お一人暮らし見守りサポーター研修を年に1回開催

日常生活圏域地域ケア会議について新型コロナウイルス感染対策をしながらZOOMまたは書面開催を導入しながら年に2回以上行う。

地域密着型事業所の開催する運営推進会議は必ず出席する（感染状況を鑑みながら）

業務の効率化を図り時間外を減らす（一人：10時間未満/月）

紙などの無駄遣いをせずコピー代など資源の節約に努める

専門3職種と体制強化職員の合計担当件数が210を超えないようにする。

② 地域貢献

具体的目標と指標

WEBを利用した地域連携の継続

消防・警察と合同の全戸訪問を各3学区で行う

感染予防を重視しながら地域の健康すこやか教室に出向き、社会福祉士を中心に特殊詐欺の中期喚起や法テラスの出張研修依頼を積極的に行う

保健師を中心に地域の介護予防体操の継続・フォローアップについて感染対策を厳重にして行う

主任ケアマネを中心に医療と介護の連携として圏域の開業医の挨拶周りを年に2回行う

認知症初期集中支援チームとの連携を強化しながら、認知症サポーター養成講座を小学校を含め地域住民との交流のあるクリーニング店・コンビニ・郵便局などに普及啓発をする

### ③ サービスの質の向上

#### 具体的目標と指標

研修会に積極的に参加し、資質の向上を図る

ヒヤリハットを毎月1人1枚書き出し、リスクマネジメントの質を上げる

社会福祉士は虐待・ゴミ屋敷の現状、保健師は地域の健康課題、主任ケアマネは認知症とその背景をデータ収集・分析・アセスメントを行い、その結果を前期・後期に分けて包括内でフィードバックし地域にも発信できるようにし、それぞれの専門性を活かす。ケアマネはその分析結果を踏まえながら、地域のインフォーマル資源にも視点を広げることができる。主任介護支援専門員を中心に下鳥羽ケアマネ連絡会を通じて地域の居宅介護支援事業所との勉強会や連携を深める

地域住民との交流や地域の学生、ボランティアを受け入れ地域福祉の拠点としての法人の公益性を高め地域社会に貢献する。

### ④ 人材確保と定着

#### 具体的目標と指標

職員間のコミュニケーションのツールとして定期的な会議の場を持つ（毎月1回）

専門3職種の会議を毎月1回と必要に応じて行い専門性を高め、仕事への意欲を高める

サンキューカードなどを利用し挨拶やコミュニケーションを充実させる

適宜職員の個人面談を行い、必要に応じたメンタルサポートを行う。

### ⑤ 感染症対策

#### 具体的目標と指標

健康すこやか教室や機関紙などで3密を防ぎ、手洗い・口嗽の実施を呼び掛ける

職員間の検温、手洗い、マスクの着用、地域活動、居宅訪問時のフェイスシールド

### ⑥ 災害対策

法人内では緊急連絡網を活用するためのマニュアル化、訓練（シミュレーション）を実施し、BCPについての意識強化と具体的実施策を話し合う場を設ける。

地域において災害に備え平常時からのネットワークを構築するよう呼びかけながらBCPについて連携システムの構築を図る。

### ⑦ 施設の保守、修繕

#### 具体的目標と指標

外勤時に使用する電動自転車など役割分担をし、毎日空気入れを行い備品のメンテナンスをこまめに行い、劣化を防ぐ。

こまめに整頓し破損がないかを確認し、必要時修理に出すよう心掛ける。

【事業所名】 そせい苑ケアプランセンター

昨年度は年間を通じて特定事業所加算(Ⅱ)の算定を開始したため、約 420 万円/年の増収を図ることができた。今年度はさらに安定した経営を図る為、目標稼働率を 95%に定め、前年度比約 180 万円/年の増収を目指す。

サービスの質の向上については、さらに質の高いケアマネジメントができるように心がける。具体的には、算定要件にある「定期的な会議(週1回以上開催)」の内容の質を高める。また、オンライン含め、地域包括支援センターや近隣の居宅介護支援事業所等との事例検討会などを進め、コロナ禍に於ける居宅介護支援の役割や個別支援の方法を学んでいく。感染対策については、日々の体調管理に加え、行政からの情報を常にキャッチし、法人内の発信役を担っていききたい。訪問での居宅支援についても、市中の状況に合わせて危機管理意識をもって対応していく。

① 安定した経営

具体的目標と指標

- (1) 毎月の適正件数(139件/月)の達成とケアマネジメントに係る書類を整備し、目標稼働率 95%を目指す。
- (2) 特定事業所加算Ⅱの算定要件である定期情報共有会議や包括・他事業所と連携し、収益面の増収を目指す。
- (3) 認知症介護をする家族をサポートし、サービス利用に繋げる。

② 地域貢献

具体的目標と指標

- (1) 定期的な事例検討会、ケアマネ連絡会へ参加する。
- (2) 医療との連携を密にし、在宅生活継続を支援するネットワーク作りを構築する。

③ サービスの質の向上

具体的目標と指標

- (1) 週1回以上開催している「定期的な会議」の計画を年度単位で立て、実践する。
- (2) 医療連携のための「橋渡し」「サービス調整力」「コミュニケーション能力」を研鑽する。
- (3) 年に2回以上、事例検討会を開催し、スキル向上に努める。

#### ④ 人材確保と定着

##### 具体的目標と指標

- (1) 年2回の面談やミーティングを通じてコミュニケーションを図り、働き甲斐のある職場作りを構築し、離職を防止し人材の育成を図る。
- (2) 京都市老人福祉協議会居宅介護支援部会(1回/2ヶ月)や伏見区サービス事業所連絡会(1回/2ヶ月)、京都府介護支援専門員会(随時)、社会福祉協議会(随時)、下鳥羽ケアマネ連絡会(2回/年)などからくる研修案内を意識的に確認し、キャリアパス・個別研修計画に応じた研修へ積極的に参加する(年6回以上/人)。
- (3) 勤務体制確保のため、3ヶ月前に勤務表を作成する。

#### ⑤ 感染症対策

##### 具体的目標と指標

- (1) 検温、手洗い、マスクの着用、地域活動、居宅訪問時のフェイスシールドを着用する。
- (2) 環境整備(消毒、換気、空気清浄機、二酸化炭素飽和度測定器など)、予防備品などの備蓄管理の徹底。事業・サービス機能を保持し、サービスを継続する。
- (3) 3密を避け、時差出勤し感染を予防する。
- (4) 家族やサービス事業所、医療機関、行政との情報共有を密にし、感染予防に努める。
- (5) 居宅訪問する前には、直前に必ず電話連絡し、「体調確認シート」を活用して、利用者本人や家族の体調や関係者との接触などを改めて確認する。

#### ⑥ 災害対策

- (1) 法人内の緊急連絡網を活用するためのマニュアル化、訓練(シミュレーション)を実施する。
- (2) 要介護の地域住民を支援する者として、地域ケア会議など通じて、近隣住民や消防・警察など各関係機関とのネットワークを構築し、要介護者が様々な災害時に想定される危険性や対応する役割などを平常時から共有しておく。

#### ⑦ 施設の保守、修繕

##### 具体的目標と指標

- (1) 外勤時に使用する電動自転車、パソコン関係、法人携帯電話など備品のメンテナンスをこまめに行なうなど、備品を大切に使用する。

## 令和4年度 事業計画

### 【事業所名】 介護老人福祉施設まどか／短期入所生活介護まどか

2012年の開設から10年を迎えるにあたり、特養では入居者の高齢化によるADLや身体状況の変化などが生じている。また、ショートステイでは新型コロナウイルスの影響による利用ニーズの急激な高まりにより、新規登録者も増えてきている。

以上のことから施設全体でよりきめ細やかな丁寧なサービス提供が求められている。

その為にも「若手・中堅職員の底上げ」「効果的な業務改善と効率化」「介護（業務内容）のデータ化」が最も重要な課題である。

令和3年度は若い年齢層の採用や既存の若手職員の役職者登用を基盤として、職員が積極的にチャレンジできる機会を設けてきた。今年度はこの「チャレンジ」を具体的に形にしていくことができる、また、新型コロナウイルスにおける社会情勢に悲観せず、地域や関係機関との情報共有や災害や感染対策の施設内の体制整備を講じていく。

具体的には、サービスの質の向上を目的とした「LIFEデータの活用」、業務改善と職員の負担軽減を目的とした「ICT機器の導入」に踏み込み、またそれらを通して職員が成長、定着する環境整備に着手していく。

#### ① 安定した経営

##### 具体的目標と指標

(1) 入居者の基礎疾患によるリスクを理解し、医師や医療機関と協同、特養の平均稼働率97%を維持する。ショートステイは、週間の具体的な空室情報を外部発信し、月平均稼働率92%以上を維持する。

(2) 安全対策担当者（介護事故の予防を強化するため令和3年4月に選任が義務化）が主となり、リスク管理と事故ごとにケースカンファレンスで決められた対応方法の再評価を行うことができる体制を整備する。

#### ② 地域貢献

##### 具体的目標と指標

(1) 運営推進会議、特に書面開催での情報開示内容を見直し、施設の状況を今まで以上に分かりやすくする。また、参加地域住民からの意見を抽出しやすくする。

(2) 下鳥羽地域包括支援センターとの情報共有の機会を設け、地域活動や地域ニーズの把握、社会状況が緩和された際のサロンの再開などの体制を整備する。

#### ③ サービスの質の向上

##### 具体的目標と指標

- (1) クラブの内容を見直し、入居者の要介護度やADL、希望に応じたクラブや行事を再考、定期的実施し、全ての入居者が楽しむことができるようにする。
- (2) LIFE システムにおけるデータを活用し、ケアの質の向上につなげる。
- (3) 無資格者の認知症介護基礎研修受講率 100%を達成する。
- (4) 職員の知識と技術を向上させるため、オンライン研修を積極的に活用し、キャリアパスに準じて、1人1回以上、外部研修に参加する。

#### ④ 人材確保と定着

##### 具体的目標と指標

- (1) 正職員の退職ゼロ、既存の派遣職員の1年以上の就労継続を目指す。
- (2) ICT、ロボットの積極的導入により業務改善と職員教育を活性化する。
- (3) ホームページ以外のSNS（インスタグラムなど ※写真や短時間の動画投稿を通しての情報発信ツール）の運用を開拓する。

#### ⑤ 感染症対策

##### 具体的目標と指標

- (1) 入居者と職員の朝夕の健康管理の徹底を継続し、発熱などの体調不良者の早期発見（ショートステイは利用前の健康チェックを含む）を行い、施設内感染（クラスター）予防を迅速に行えるようにする。
- (2) 新型コロナウイルスによる陽性者発生を想定し、業務継続計画（BCP）に基づいた感染対策（初動・防護具の在庫の定期確認）を講じる。

#### ⑥ 災害対策

##### 具体的目標と指標

- (1) 業務継続計画（BCP）策定と運用に係る担当者の選定、研修参加を実施する。
- (2) 業務継続計画（BCP）に基づいた、地震や水害を想定する避難訓練をそれぞれ年1回実施する。

#### ⑦ 施設の保守、修繕

##### 具体的目標と指標

- (1) 施設設備、機器の不具合について、特養とショートステイに担当役職者を配置し、現場からの情報の吸い上げ、入居者の生活に重大な支障が出ないように、迅速に対策を講じる。
- (2) ベッドマットレスや入浴機器など直接ご入居者が接する機器、エアコンや厨房機器などのライフラインなどの設備機器の整備や入れ替えを順次検討する。

## 令和4年度 事業計画

### 【事業所名】 まどかⅡ番館特別養護老人ホーム

開設から4年目となり介護職の離職が減り正規職員が定着し、多職種での協力体制が構築できてきた。その強みを生かし介護力の底上げに努め、入居者個々の要介護度、身体状況の変化に応じた高品質の介護サービスが提供できる体制を整備する。また、入居者一人ひとりが希望の暮らしを実現できるよう保証する。課題としては入居者の尊厳を守る介護の在り方や、家族に信頼される施設運営の目標が職員間で明確になっていないこともあり対応にばらつきがみられる。今年度は職員間での話し合いや情報の共有を推し進め、科学的根拠に基づいた介護を目指し統一した介護に努める。

新型コロナウイルスとの共存による新たな日常を踏まえ、施設内での感染症対策を継続し、クラスターの発生を予防する。また、定期的な面会ができず、閉ざされた環境下での不安を解消できる対策を講じ、入居者及び家族が安心できる「新たな情報の発信」を行う。

#### ① 安定した経営

##### 具体的目標と指標

(1) アセスメント力を高め、特に誤嚥性肺炎、転倒等による骨折リスクの高い入居者の状態を把握し、サービス担当者会議で多職種の役割を明確にし、怪我や入院のリスクを回避する。

目標稼働率 97.5%を維持する。

(2) 退所から入所までの空床期間を5日以内とする。

#### ② 地域貢献

##### 具体的目標と指標

(1) コロナ禍で書面開催となっている運営推進会議の現状を踏まえ、報告書類の見直しを行い、地域住民の意見や助言等を施設運営に反映し、開かれた施設運営を行う。

(2) 災害時におけるBCP（業務継続計画）を策定し、地域の防災拠点となる体制を整備する。

#### ③ サービスの質の向上

##### 具体的目標と指標

(1) 入居者アンケート、家族アンケートなど具体的な要望や希望を運営に生かす。

(2) 誕生会や行事、ウォークラリーなど入居者が楽しめる機会をつくる。

(3) キャリアパスに沿った研修や認知症介護実践者研修（2年以上）、苦情解決、感染症、

事故予防等の研修に職員を参加させスキルアップを図る。

- (4) 毎月の職員会議やユニット会議で業務改善、介護サービスを見直しケアの質を向上する。
- (5) 外部評価を積極的に活用する。

#### ④ 人材確保と定着

具体的目標と指標

- (1) 年2回の面接を行い、個々の目標設定や希望の聴取、資格取得の支援等、働くモチベーションにつながる人事考課を行う。
- (2) 離職を防止し、適材適所の人員配置を行い残業時間の削減を図り、働きやすい環境を整備する。

#### ⑤ 感染症対策

具体的目標と指標

- (1) 入居者、職員の健康管理の継続及び新型コロナウイルス等の罹患が疑われる段階からフローチャートに準じて適切な初期対応を行い、施設内でのクラスターを予防する。
- (2) 消毒、換気などの環境整備、感染予防備品などの備品管理を徹底する。

#### ⑥ 災害対策

具体的目標と指標

- (1) BCP（業務継続計画）に準じたシミュレーションの実施、災害時の緊急連絡網の更新を定期的に行う。
- (2) 防災委員会と協力し災害備蓄を見直し大型災害時に備える。

#### ⑦ 施設の保守、修繕

具体的目標と指標

- (1) 入居者の生活に支障がでる施設設備の不具合については迅速に対応する。
- (2) 備品を大切に扱う事を前提に、施設内設備を使用する。

## 令和4年度 事業計画

### 【事業所名】 まどかⅡ番館グループホーム

開設当初から入居されている入居者の加齢による下肢筋力や認知機能の低下が見られ、以前できていた事ができなくなり、支援を要する場面が増えつつある。個々の身体状況や認知機能に応じた生活支援を実践し、活動性や認知機能の低下を予防する。また、体操や個別運動を継続し、下肢筋力の低下が原因での転倒を予防する。

かかりつけ医との連携・情報共有を定期的に行い、持病や身体状況の悪化を未然に予防する。体調不良時は速やかに受診できる体制を家族とも共有し、早期に対応できるようにする。

#### ① 安定した経営

##### 具体的目標と指標

- (1) 転倒予防や体調管理の徹底、認知症の進行を緩和し、稼働率100%を目標とする。
- (2) 居宅支援事業所や病院の地域連携室と連絡を密にし、速やかに入所できるよう待機者を確保する。
- (3) サービス提供強化加算を算定する要件を維持し、介護保険事業収入の増収を目指す。

#### ② 地域貢献

##### 具体的目標と指標

- (1) コロナ禍で書面開催となっている運営推進会議の現状を踏まえ、報告書類の見直しを行い、地域住民の意見や助言等を施設運営に反映し、開かれた施設運営を行う。
- (2) 災害時におけるBCP（業務継続計画）を策定し、地域の防災拠点となる体制を整備する。

#### ③ サービスの質の向上

##### 具体的目標と指標

- (1) 毎月の会議やサービス担当者会議で介護サービスを見直し、個別に応じたケアを実践する。
- (2) 集団での体操、運動やレクリエーションの継続と入居者個々に応じたレクリエーションやリハビリを実践し、活動性や下肢筋力の低下、認知症の進行を緩和する。
- (3) 認知症、看取り、感染症、事故予防等の研修に参加する

④ 人材確保と定着

具体的目標と指標

- (1) 年2回の面接を行い、個々の目標設定や希望の聴取、資格取得の支援等、働くモチベーションにつながる人事考課を行う。
- (2) 離職を防止し、適材適所の人員配置を行い残業時間の削減を図り、働きやすい環境を整備する。

⑤ 感染症対策

具体的目標と指標

- (1) 入居者、職員の健康管理の継続及び新型コロナウイルス等の罹患が疑われる段階からフローチャートに準じて適切な初期対応を行い、施設内でのクラスターを予防する。
- (2) 消毒、換気などの環境整備、感染予防備品などの備品管理を徹底する。

⑥ 災害対策

具体的目標と指標

- (1) BCP（業務継続計画）に準じたシミュレーションの実施、災害時の緊急連絡網の更新を定期的に行う。
- (2) 防災委員会と協力し災害備蓄を見直し大型災害時に備える。

⑦ 施設の保守、修繕

具体的目標と指標

- (1) 入居者の生活に支障がでる施設設備の不具合については迅速に対応する。
- (2) 備品を大切に扱う事を前提に、施設内設備を使用する。

## 令和4年度 事業計画

### 【事業所名】 まどかⅡ番館デイサービスセンター

令和3年度から淀方面の利用者が増え、毎月4名程度のお試し利用がありその60%は利用継続となり稼働率も向上した。今後も淀、羽束師、久我方面にアプローチし、利用者を獲得したい。

デイサービスでは利用者一人ひとりが利用時間中の過ごし方を自由に選択し、入浴、友人づくり、リハビリ、読書、手芸、書道など楽しく過ごせている。今後も「心地よい時間」をデイサービスで過ごせるようケアプランに沿って支援していく。

施設内の掃除を徹底し、消毒、換気に努める。また家族、ケアマネとの連携を図り、体調不良の早期発見や感染症の罹患を防止し、クラスター発生を予防する。

#### ① 安定した経営

##### 具体的目標と指標

- (1) 理学療法士による日常生活機能に焦点をあてたプログラムの立案や個々に応じたアクティビティの強化に努め、新規利用者を獲得し稼働率70%を目指す。
- (2) 定期的に広報誌（チラシ）を作成し、ケアマネジャーに広く配布し、デイサービスの取り組みや情報を提供し、利用におけるサービス選択の支援に取り組む。

#### ② 地域貢献

##### 具体的目標と指標

- (1) コロナ禍ではあるが、地域交流サロンを地域住民の社会活動の場として活用しできる体制について検討する。

#### ③ サービスの質の向上

##### 具体的目標と指標

- (1) 趣味活動の継続や介護予防に重点を置いたクラブ活動、レクリエーションなどの介護サービスを提供する。
- (2) リハビリ担当者の家庭訪問のアセスメントを通じてリハビリメニューを充実させ、自宅で安全に過ごせるよう支援する。
- (3) 個人情報の流出に注意し、申し送りや送迎車内での会話に気を付ける
- (4) 職員に美しい言葉使いや身だしなみ等を学ぶため接遇研修を実施する。

#### ④ 人材確保と定着

##### 具体的目標と指標

- (1)年2回の面接を行い、個々の目標設定や希望の聴取、資格取得の支援等、働くモチベーションにつながる人事考課を行う。
- (2) 離職を防止し、適材適所の人員配置を行い残業時間の削減を図り、働きやすい環境を整備する。

#### ⑤ 感染症対策

##### 具体的目標と指標

- (1) 送迎時の検温、体調管理を実施しデイサービス内でのうがい、手洗い、消毒を励行し感染症予防に努めていく。発熱などの新型コロナウイルスの罹患が疑われる段階からフローチャートに準じて適切な初期対応を行い、クラスターを予防する。
- (2) 消毒、換気などの環境整備、感染予防備品などの備品管理を徹底する。
- (3) 循環式浴槽の週1回の換水、循環経路の粗大汚濁物を除去する装置(ヘアキャッチャ)の清掃、浴槽水の消毒、設備の衛生管理を行い、レジオネラ菌発生を防止する。
- (4) 広報誌などを利用して自宅での感染予防についての啓発活動を行う

#### ⑥ 災害対策

##### 具体的目標と指標

- (1) BCP(業務継続計画)に準じたシミュレーションの実施、災害時の緊急連絡網の更新を定期的に行う。
- (2) 防災委員会と協力し災害備蓄を見直し大型災害時に備える。

#### ⑦ 施設の保守、修繕

##### 具体的目標と指標

- (1) 利用者の安全確保のための送迎車の定期メンテナンスや事故時の修理を迅速に行う。

## 令和4年度 事業計画

### 【事業所名】特別養護老人ホームしがせせい苑

介護業界の慢性的な人手不足は当施設でも課題となっているが、勤務する介護職員に介護福祉士が多いことは大きな強みと考えている。入居者においては持病の悪化や加齢に伴う衰弱など個別ケアの必要性が高まっている。こうした現状からよりきめ細かなケアが求められているため、職員の専門性を生かし、質の良い介護を実践し、入居者や家族が望む生活が実現するよう支援する。

また令和3年度の職員研修は、従来型の研修に加え、ウェブ研修などを活用してきた。今年度はさらに進化するIT技術を導入し多様な学びの機会を提供していく。

人材不足を解消するためには、介護機器を導入し、業務の効率化で職員の負担軽減を図る。滋賀県の介護専門学校では研修の充実や職員の身体的な負担を軽減する介護機器の導入をしている施設に学生を推薦しているという実績もあるため、情報を収集し優れた人材の確保に努める。

近年多発する災害及びコロナウィルス感染防止に対するさらなる対策強化にも取り組む。施設環境については開設から19年目を迎えることから、建物設備の不具合を適切に把握し、計画的かつ適時の整備、修理を行う。

#### 安定した経営

##### 具体的目標と指標

介護、看護、協力医療及び協力歯科医院との連携を図り、口腔内の清潔を保つことや口腔ケアの技術向上を図ることで、誤嚥性肺炎のリスクを軽減し、入院を減らし目標稼働率98%以上の維持を目指す。

入退所に伴う空床期間の短縮に努める。

備品管理や在庫管理、業者との価格交渉を行い無駄な出費を抑える。

#### 地域貢献

##### 具体的目標と指標

いきいきサロンあけとみ再開に向けて感染症対策を徹底した企画立案の準備をすすめる。

地域自治会との交流を継続し、防災会議や消防訓練に積極的に参加する。

#### サービスの質の向上

##### 具体的目標と指標

介護技術講習を実施し、質の向上と統一した介護を行う。

年2回実施するサービス向上のためのアンケートを活用し、課題となったサービス内容を

振り返り、業務の改善や接遇面の改善につなげる。  
介護機器を導入し利用者の情報を共有できるようにする。

## 人材確保と定着

### 具体的目標と指標

人材の確保、育成、定着についてはキャリアパスに沿った研修会への参加や、職員会議、職員同士の懇談、上司との面談などで本人の希望が実現できるような組織づくりをしていく。業務分担表を作成し業務の見える化を行い、業務の効率化を図ることで職員の残業を減らす。

職員採用に向けた採用活動・広報の強化。

介護福祉士の確保により継続的に専門性を高め介護職の中核的な役割を担いサービスの質の向上につなげる。

## 感染症対策

### 具体的目標と指標

感染症版BCPの策定やマニュアルの徹底、見直しを随時行うことで予防に努め、発生時には臨時に対策委員会を開催し、拡大防止に努めていく。

誤嚥性肺炎のリスクを減らすため、口腔内の清潔を保つ。また口腔ケア技術向上のための研修を実施する。

## ⑥ 災害対策

### 具体的目標と指標

備蓄の一覧表作成し、消費期限の切れた物品を入れ替え、災害時に備える。

リスクマネジメント委員会で非常時の体制を構築し、役割分担等を定めたマニュアルや、災害時に起こりうる状況を時間軸ごとに想定し対応策を整備していく。

## ⑦ 施設の保守、修繕

### 具体的目標と指標

利用者の生活の質を維持する為に、中長期を見据えた ICT 設備の導入や、修理の計画表を作成し、計画的に進めていく。

居室扉やトイレ扉の点検及び修繕を実施する。

## 【事業所名】 ショートステイしがせせい苑

重度の認知症の利用者が多くなる中、認知症関連研修へ参加した職員を中心に認知症に対する勉強や関わり方をユニット会議等で行い、介護の質を高める。

利用者一人ひとりのアセスメントや普段の生活状況等をケアマネージャーや家族等から聞き取り、利用者を取り巻く事業者と情報交換し在宅支援を行う。

今まで関わりがなかった事業所に「ショートステイしがせせい苑」サービスを紹介し、定期的に訪問活動を行い新規利用者とリピーターの確保につなげ目標稼働率達成を目指す。

利用者や家族が「しがせせい苑に行くと元気になる」と思ってい頂けるようなレクリエーションやリハビリメニューを用意する。

### 安定した経営

#### 具体的目標と指標

ショートステイの空き情報や施設での行事をケアマネージャーや家族にPRし目標稼働率88%を目指す。

今まで関わりが無かった居宅介護支援事業所の新規開拓を目指し、当施設について知ってもらうことで新規利用者の獲得する。

備品管理や在庫管理、業者との価格交渉を行い無駄な出費を抑える。

### 地域貢献

#### 具体的目標と指標

重度の認知症の方やその家族が安心して暮らせるようまちづくりを行政や医療機関などと連携して進める。

### サービスの質の向上

#### 具体的目標と指標

利用者が「また来たい」と思っていただけの処遇を目指し、リピーターが増えるサービスを提供する。

職員間で利用者の情報共有を行い、個別ケアの充実を図る。

サービス向上アンケートを活用し、課題なったサービス内容を振り返り、業務の改善や接遇面の改善につなげる。

ケアプランに沿った総合的な支援で利用者の機能向上に努める。

介護福祉士の確保により継続的に専門性を高め介護職の中核的な役割を担いサービスの質の向上につなげる。

### 人材確保と定着

#### 具体的目標と指標

人材の確保、育成、定着についてはキャリアパスに沿った研修会への参加や、職員会議、職

員同士の懇談、上司との面談などで本人の希望が実現できるような組織づくりをしていく。  
業務分担表を基に業務の見える化を行う。

## 感染症対策

### 具体的目標と指標

全職員が感染症予防対策について習得できるようにミニ講習会を実施する。  
施設に感染症を「持ち込まない」を徹底し、感染拡大が起こらないように利用者家族やケアマネージャーとの情報共有や連携を強化していく。

## ⑥ 災害対策

### 具体的目標と指標

リスクマネジメント委員会で非常時の体制を構築し、役割分担等を定めたマニュアルや、災害時に起こりうる状況を時間軸ごとに想定し対応表を整備していく。

## ⑦ 施設の保守、修繕

### 具体的目標と指標

特殊浴槽の更新で利用に支障がでないように計画表や利用者の処遇マニュアルを作成する。

## 【事業所名】 デイサービスしがせせい苑

デイサービスの自立支援に向けた『エール』の開始から3年を迎え、活用が難しい利用者が多くなり、年間を通して定期的な見直しと新たな取り組み方法を模索してきたが、居宅介護支援事業所への情報提供不足で新規利用者の獲得が伸び悩み稼働率を向上することができなかった。

今年度は、新規利用者の獲得に向けて年間を通してデイサービスでの取り組みや空き情報を居宅介護支援事業所へ送付、ケアマネージャーからの問い合わせには即時対応し信頼の向上に努めていく。また、昨年度より開始となった「L I F E」を活用することでさらに機能訓練を充実させ在宅支援の強化を図る。

新型コロナウイルス対策においては、利用者の体調管理、送迎時の検温、手洗い、うがい、消毒を徹底し感染予防対策への継続に努めていく。

## 安定した経営

### 具体的目標と指標

自立支援に向けた『エール』について内容の見直しを行い、目標稼働率80%を目指す。定期的にホームページへの掲載や広報紙を発行し、情報発信を行う。備品管理や在庫管理、業者との価格交渉を行い無駄な出費を抑える。

## 地域貢献

### 具体的目標と指標

ケアマネージャー、主治医等、利用者を取りまくサービス事業者と積極的に情報交換し、より良いサービスの提供に努め在宅支援機能の強化を図る。

## サービスの質の向上

### 具体的目標と指標

「L I F E」を活用し利用者の生活状況を把握した上で自宅訪問やサービス担当者会議に参加し、介護予防、機能向上を目指し、心身機能訓練から生活行為向上訓練まで総合的に機能訓練を充実させる。

職員は情報の共有に努め、アセスメント機能を高め個別性の高いサービスを提供。

利用者一人ひとりにデイサービスでの過ごし方を確認し、満足の行く時間を過ごして頂けるようにする。

## 人材確保と定着

### 具体的目標と指標

人材確保、育成、定着についてはキャリアパスに沿った研修会への参加や、職員会議、職員同士の懇談、上司との面談などで本人の希望が実現できるような組織づくりをしていく。

## 感染対策

### 具体的目標と指標

全職員が感染症予防対策出来るようにミニ講習会を実施する。

感染拡大が起らないように利用者家族やケアマネージャーとの情報共有や連携を強化していく。

## ⑥ 災害対策

### 具体的目標と指標

利用中に大規模地震が起こることを想定した訓練を繰り返し行い、家族との連絡方法等課題となることを検討する。

リスクマネジメント委員会で非常時の体制を構築し、役割分担等を定めたマニュアルや、災害時に起こりうる状況を時間軸ごとに想定し対応表を整備していく。

## ⑦ 施設の保守、修繕

### 具体的目標と指標

特殊浴槽の更新、送迎車の更新に伴い、利用に支障がでないように計画表や利用者の処遇マニュアルを作成する。

## 【事業所名】居宅介護事業所しがせせい苑

身近なケアマネージャーとして、いつでも相談できる環境作りを行い毎月の適正件数の達成とケアマネジメントに係る書類を整備する。ご近所同士が朝夕、声を掛け合う環境にあるので、地域での見守りを大切にし、民生委員や健康福祉委員による定期訪問を地域の重要な社会資源として活用できるように位置づけていく。閉鎖的で家族以外の人に援助を求めない認知症の方やその家族に対して地域包括担当者と定期的に訪問し、状態の把握や困りごとを聞き、必要な援助につなげるように努めていく。

### 安定した経営

#### 具体的目標と指標

事業運営の進め方や地域への広報、地域での役割、人員配置を見直し、目標稼働率 90%を目指す。

事業所全体の資質向上に努め、地域福祉の発展に貢献する人材を育成する。

### 地域貢献

#### 具体的目標と指標

いきいきサロンあけとみ再開にむけて感染症対策を徹底した企画立案の準備をすすめる。行政、保健、福祉、医療機関との関係強化を図る。

### サービスの質の向上

#### 具体的目標と指標

地域ニーズや地域課題の把握のために事例検討会やケアマネ連絡会に参加する。

専門職としての知識の習得とスキルアップの為に研修に参加し、伝達し共有する。

### 人材確保と定着

#### 具体的目標と指標

様々な制度に対応できるような内外の研修に参加し、より良いプランを作成するために自己研鑽に努める。

介護保険改正の内容を熟知し、利用者が地域で自律して暮らせるケアプランの作成に役立てる。

### 感染症対策

#### 具体的目標と指標

全職員が感染症予防対策出来るようにミニ講習会を実施する。

事業者の集いや研修会への参加、利用者宅訪問などに ZOOM などのオンラインを活用する。

⑥ 災害対策

具体的目標と指標

リスクマネジメント委員会で非常時の体制を構築し、役割分担等を定めたマニュアルや、災害時に起こりうる状況を時間軸ごとに想定し対応表を整備していく。

地域の自治会との密接な協力体制の構築を推進する。

## 【事業所名】 ケアハウスしがせせい苑

入居者の加齢による下肢筋力の低下や持病の悪化に伴い、今までご自身で出来ていたことが出来なくなり、介護支援が少しずつであるが増えてきているためできるだけ長く健康でケアハウスで生活できるよう、介護予防の推進、入居者様の機能向上に努める。

介護事業関係者にケアハウスの存在や利点を知ってもらえるために各居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、病院の地域連携室への定期的な訪問活動を行う。

新型コロナウイルス感染予防のため、引き続き手洗い・うがい・消毒・換気の徹底や体調不良の早期発見や罹患を防止していく。

### 安定した経営

#### 具体的目標と指標

入居待機者数の確保及び定期的な状況確認を行い、退去者発生後の空床期間の短縮を図り目標稼働 95%を目指す。

入居者一人ひとりが大切に過ごしてこられた習慣や地域社会との繋がりを大切にし、その人に合った生活が実現できるよう、自立的な日常生活をサポートしていく。

### 地域貢献

#### 具体的目標と指標

ケアマネージャー、主治医等、利用者を取りまくサービス事業者と積極的に情報交換し、より良いサービスの提供に努め在宅支援機能の強化を図る。

### サービスの質の向上

#### 具体的目標と指標

できるだけ長く健康でケアハウスで生活できるよう、介護予防の推進、入居者様の機能向上に努める課題となるサービス内容を振り返り、業務の改善や接遇面の改善につなげる。

コロナ感染予防の対応が引き続き必要となる中、既存のクラブ活動や行事開催については入居生活の楽しみの一つと感じてもらえるよう、感染対策を行い出来る限り実施していく。

### 人材確保と定着

#### 具体的目標と指標

人材確保や育成、定着についてキャリアパスに沿った研修会への参加や職員会議や面談を通して職員の希望が実現するような風土を作る。

### 感染症対策

#### 具体的目標と指標

全職員が感染症予防対策出来るようにミニ講習会を開催する。

フロアを1日2回以上、アルコール消毒し感染予防に努める。

入居者への感染予防対策に対する情報共有や勉強会を開催する。

⑥ 災害対策

具体的目標と指標

災害に備えて備蓄の一覧表や物品を準備していく。

リスクマネジメント委員会で職員の参集や役割分担等を定めたマニュアルや、災害時に起こりうる状況を時間軸ごとに想定し対応表を整備していく。

⑦ 施設の保守、修繕

具体的目標と指標

施設備品を点検し、必要な修繕を行い入居者の安全に努める。